

令和元年度第4回 山陽小野田市地方卸売市場運営協議会議事録

開催日時	令和元年11月27日(水) 13:30~15:10
開催場所	山陽小野田市地方卸売市場 会議室
出席者	<p>小野田中央青果株式会社 代表取締役 深井 篤 小野田中央青果仲買人組合 組合長 高橋 泰男 山陽地区法人・担い手連絡協議会 会長 田中 覺 (株)三昧 代表取締役 松村 正勝 消費者の会 会長 内藤 美恵子 学識経験者 村上 俊治</p> <p>山口県農業協同組合宇部統括本部 営農経済部長 松永 芳明 公募委員 岩本 信子 公募委員 草田 和枝 山陽小野田市 経済部長 河口 修司 (事務局) 山陽小野田市地方卸売市場 場長 高橋 敏明 山陽小野田市 経済部農林水産課 坂根主幹、平係長、稲葉</p>
欠席者	<p>フレッシュ 高橋 真也 青果市場買受人組合 組合長 河内 良満</p>
会議概要	<p>1 会長あいさつ</p> <p>2 議題 (1) 運営協議会にて取組むべき事項について 事務局：過去3回開催したなかで、「市場は必要」ということを皆さん方で確認できたが、卸売業者の問題が委員の皆さんから話が出てきた。それについて、開設者として市の考え方や卸売業者の中央青果の考え方・方針が具体的にある程度示してもらわなければ、運営協議会が先に進まないのではないかと。という御意見が第3回目の会議で意見として随分だと事務局はとらえている。また、卸売業者の取締役会や株主総会の中で議論を進める中で、この運営協議会にお示しできるものがあれば示してもらいたい。という意見も前回でた。そうした中で、まず、市や卸売業者から、考えや前回から取組みが進んだこと等の御発言をいただきたい。</p> <p>会長：それではまず、中央青果の情勢報告をしていただきたい。</p> <p>委員：前回の会議から取り組んだことについて報告する。まず、仲卸業者さんから協力してもらえることになった。ですので、仲卸業者さんとの相対取引の量が今後増えていって、取扱高増が期待できるのではないかと。思う。また、一般管理費の削減にも取り組んだ。所有していた4tトラックを売却した。それで、燃料代の削減が図れる。また、パート従業員が今月1人退職したため、12月以降、人件費の削減が見込める。一般管理費の削減についてはわずかではあるが、さらなる経費削減に向けて努力していきたい。また、取扱高については、何か方策がありましたら、皆さんからのアイデアをいただきたい。</p>

会長：開設者である市から何かあるか。

委員：以前の会議からこれといったことはないが、基本的には、中央青果の状況を市長・副市長に報告しながら、今後どういった対応ができるのかを協議している。目に見えてこういう風になったということは前回の会議からはない。遅れているが、7月半ば以降にお願いしている外部監査についても、JAに対する協力依頼もあったので、中央青果と一緒に整理をしている。それから、社長の交代という大きな課題があるが、お願いはしているが、内情を理解していただく中で、いいお返事がもらえず、まだ後任については決まっておらず、協議を進めているところである。

会長：今から、会長の立場ではなく、JAの立場として報告させてもらう。当初、市場の開設にあたり、市とJAが連携をとって市場を設置した。そういう中で、市場の活性化に向けてというよりは、地域の生産者がこちらに出荷していただく場を無くしてはいけない。これがJAとしての最大の取組みである。継続させるためにも、荷を持ってきても出口がないと出荷は難しい。私たちとしても担い手や法人等に、「こちらで安定的な取引を」と内部で話しているところである。しかし、どうしても出口の安定性を求めていかないといけない。市場は適正な価格が維持できるか、JAも県一となった中で、市場活性化に向けて、こちらに荷を向けることは可能である。皆さん方から御意見いただいて、出口の方を御支援いただき、御紹介いただければと思う。そういうものを話題定義とさせてもらう。

また、今それぞれの立場から申し上げたが、皆さんから御意見をまずは聞かせてもらいたい。

委員：社長から削減のお話があったが、守るべきものは守っていかないといけないと思う。事務の人が辞められたということは職員に負担がかかる。職員が継続して安心して働けるかも係ってくるので、そこら辺の対応を展開してもらいたい。生産者の立場として、小野田中央青果を窓口として、地域の方に発信していただきたい。

委員：管理費を抑えることを考えるのではなく、全体量を増やさないと全く利益があがらないので、経費削減も大切だが、やっていることがどうかなと思う。山陽のJAに出荷してそこで売れなかったものがこの市場ではなく他のところに行っているのだから、JAとしてもこの市場を大切に思っているのか。前回別の委員さんが、同規模都市にどのくらいの市場があるのか、本当に本市に市場が必要なのか、質問として出たので、回答がほしい。生産者に出荷してもらうことも大切だが、売り先の確保ができていないと活性化は難しいと思う。知っている人で、直接、大手スーパーに出荷されている方もいるので、うまくやれば、市場を通してもらうこともできるのではないかと。存続、活性化してほしいが、具体的な策がないと活性化は難しいのではないかと。

委員：事業を今から増やしていかないといけないと思っているが、先ほど社長の話を聞くと、事業を縮小していくのか。と思った。JAが「出口の安定性」と言われた。継続するかしないかは、ここが一番の要になると思う。売買参加者を増やすことができるのか。その努力を前回の会議から今日までにされたのか。

委員：7月のはじめに、市とJAの方に協力依頼の文書を出しており、一体となった取り組みをしているが、なかなか進んでいない状況である。

委員：見通しはどうか。出口の安定性を求めるのであれば、具体的な計画を立てて動いていかないといけないと思うが、市とJAと協力してできるのか。

委員：早急に計画をたてて進めていかなければならないと考えている。

委員：昨日、臨時株主総会が開かれていると思うが、この運営協議会では一応、継続の方向で進もうとしているが、株主総会の中ではこの協議会をどのようにとらえられたのか気になった。

委員：昨日の株主総会の内容は、この運営協議会に話すことではない。

会長：会長として、株主総会の方にも提起している。また、運営協議会に返さないといけないもので、回答できるものについては返すようには私からも伝えている。

委員：今の社長の返事だが、「協力依頼をして新たな取引を」「市とJAと一体となった取り組みを考えているけど実を結んでいない」、だけど、今まで3回の協議会の中で話されて堂々巡りでいけないから、どういうふうにするかを今日発表してもらったのではなかったか。今は会長によって皆さんからの意見を言うところではあるが、7月に協力依頼とか具体的な文言がないではないか。その辺を明らかにして、具体的に市場の活性化をどの場面でどのように取り組むのか。

委員：今まで話を聞いていて、なかなかスムーズに事が進まないということがわかった。消費者の立場として、地産地消を、地域のを地域の人が安心して購入できるようなことができるように。地元のスーパーに地域のが卸してもらえないことが不思議である。また、地方卸売市場を知らない人が多いと思う。地域の人たちを開いて、野菜が安く買えるというときがあるといいなと思う。

委員：無理に中央青果が入らなくても大手スーパーは回っているので、今後、大手スーパーと仲良くすることが無理ではないか。（そういうシステムができていたため）大手スーパーなしでどう活性化していくかという視点も必要なのではないか。消費者から、この市場が絶対必要という話を聞いたことがない。

委員：大手スーパーと再開するかしないか。はっきり回答がほしい。

委員：協議中である。中央青果としては再開してもらいたい。

会長：委員に質問ですが、大手スーパーがマルだった場合とバツだった場合、どうなるか。

委員：私個人の見解（私の持っているスキル）として、

マルだった場合は、3年で5億円にはなる。平成19～21年の8.9億円は不可能であるが、ただそれに近くまでには戻る可能性がある。

バツだった場合は、いくらやっても現状維持。経営はできるが、規模は縮小になるし、中央青果は刷新し、行政主導の経営をやめる。2.5億～3億が限界であろう。

会長：今までの皆さんの意見を集約すると、「中央青果の経営陣に対して、運営方針についての方向性を決めてもらわない」と今後の運営協議会を進めることができないということでしょうか。

- ・生産者サイドと消費者サイドとしても、地元のは地元でということでは市場は必要だ。
- ・経営的なものが行き届いていない。
- ・具体的に出口（大手スーパー）の方が本当に戻ってくるのか。

集約されたものをきちんと報告していくことが議長の務めだと思っている。

市の立場、JAの立場、中央青果の立場で見解をまとめてもらい、第5回目には出してもらおう必要がある。

事務局：一度、これで集約する。

委員：質問であるが、「大手スーパーが再開したら・・・」と話があっただが、結局、出口の安定性を図るということだが、元々取引きしていたのに、撤退した理由が社長たち（取締役）が把握しているのか。理由がわかっていて、交渉しているのか。

委員：本市場の開設時間が7：30からで、宇部が4：00からである。7：30にこちらに荷を取りにきて、各店舗に配っていくのは時間的に無理である。と言われた。

委員：本市と宇部市とのタイムラグがあるから、できないと言われたが、今までそれでやっていたのに、何でか。取引きしていたときとその条件は一緒である。今になって何でできないのか。

委員：今、発言したのは、撤退の理由ではなくて、再開してもらおうとしたときに言われたことである。

委員：撤退された理由が今後の活性化につながると思うので、撤退理由を教えてください。

委員：撤退理由は把握しているが、この場では話せない。

委員：大手スーパーだけじゃないけど問題というものは、みんなで共通認識、共有しないと、こういうふうにしたらとか、それでいろんな知識を持った人たちがそれぞれここにいるんじゃないか。

委員：この場で話せないという理由が、大手スーパーさんの会社、社長の問題が大きくて話せない。それ以外にも、解決していかないといけないことがあるので、それをクリアしていかなければいけない。

委員：社長、個人の問題と言われたが、市場として、中央青果として解決できる問題なのか。

委員：今すぐにはできない。時間が必要である。

会長：コンプライアンス上、言えないことがある。

委員：大手スーパーと中央青果のことは口出しすることではないということか。

会長：この協議会においては、中央青果の経営に対しては意見出してよい。

委員：中央青果と市が大手スーパーに行かれて、大手スーパーからの要望に対して、言われたことがクリアできていないから取引ができていないということですよ。あなた方のスキルでできますか？

会長：取締役として言わせてもらおうと、スキルがあるかどうかは答えることはできない。私たちにそこにもっていけるだけの力がない。スキルというのがそこなら、力はない。ただ、お願いするしかない。地元から地元に戻ってきてほしい。というところから、遅いかもしれないが、一歩ずつ取り組んでいくしかない。

委員：それだけのキャパがない。今、言われたように能力がないわけでしょ。

委員：撤退した理由が把握できているのであれば、その理由をきちっと理解して、そこをクリアしていただきたい。

委員：それいつ頃できるのか。中央青果が何か月、何年ももてるか。そこが問題じゃないか。

会長：議長として言わせてもらおうと、この運営協議会は、今ある問題もあるが、次をどうしていくか考えていくために、それぞれの立場で意見を出してもらいたい。でも、3回と会議を開いても同じ意見しかない。根底にあるのは、経営者から何の発信もないから、皆さんも困惑して考えようがないのではないかとされたので、この部分を整理して、次の機会には、議長の責任を持って出してもらわないといく

ら経ってもできないからである。

ただし、委員が言われるように、立場から考えて、こういったことを長引かせても、一日一日首を絞めているじゃないかと言われることも十分わかっている。だけど、私たちはそれを踏まえて変えていかないと降ってくるものが、何が降ってくるかわからない。まだまだ見えないものがある。

委員：物理的なものか、精神的・心理的なものか。

会長：これもお答えできない。

委員：今度のときは、経営者としての行動計画（アクションプラン）をきちんと示してもらいたい。

委員：宇部の大同青果の話だが、県が介入して毎月、販売促進会議を行っている。県のぶちうま山口というのがあって、県産品をスーパーに売り込もう。ある種そういうのとタイアップして、やるのも良いのでは。県庁に行ったときに、大手スーパーとの商談会を行っていた。市役所はこの小野田中央青果の再建に対してどこまで本気度があるのか。本気でやるなら、市長が出て行ってトップセールスするべきである。県を呼んで販売促進会議に参加したりするべきである。市とJAがどこまで本気なのか。県の方をオブザーバーとして呼んで意見をいただくといいのではないか。

委員：前回の会議の終わりが、その話ではなかったか。さっきから、皆さんの意見を踏まえて、市役所の本気度、卸売市場の会社の本気度を聞こうって話だったので、それを示してほしい。

委員：今、ここの状況、当然把握しないといけない、いろんな意見を頂いたことも含めて、市長副市長に何回も協議している。報告しながら、どうしていったら一番良いのかというのが今、お答えできないのが申し訳ないが、今実際にやっている。そこを、こういうことはどうなのか。こういうことはできないのか。市場を活かすにはどうしたらいいのか。中央青果を活かすにはどうしたらいいのか。ということも含めて、いろいろ情報共有しながら、まだ結論が出ていないのが事実である。

委員：いつ結論が出るのか。

委員：それはまだちょっと・・・

事務局：「市の本気度はどうなのか。」と市長に直接ぶつけてはどうか。

委員：ここに市長に来てもらって、今までの行政側のやり取りでどういう判断をするのかをお聞きしたい。

事務局：そういった言われることが皆さんの疑問であり、思いであるということで、先ほど会長が言われたのは、そういったものを含めたもので、事務局整理せえやという御指摘を受けたと思っている。それを市長にぶつけるという意味である。本気度を示せというご意見いただいた。こうやったらどうかとか具体例をいただいた。事務局側のまとめ方だと思う。会議の中で、こういう経緯があった。出口の意見も多い。核となる出口が必要ではないか。その具体的な例として、大手スーパーとの対応はどうか。ですから、皆さんからいただいた意見をまとめさせていただき、案として、皆さんにお示しする中で、これで良いとなれば、それを市長に提出したい。その後で、早めに市なり、会社なりに方向性や考え方を示してもらわないと運営協議会が進まない。ということも取りまとめていきたい。

委員：どういうふうな答申の仕方をするか、文言の訂正をこの会議で必ず一回はもってもらいたい。

事務局：それはやる。

会長：事務局には、素案を作ってください、もう一度皆さんの目に触れるような機会を持っていただき、それをぶつけるということをお願いします。

3 その他

次回開催予定日：令和2年1月8日（水）13：30～

議事終了
散会